



岩手県立大東高等学校



機種により読み取りが困難な場合があります。

第 18 号

令和6年3月1日発行
一関市大東町摺沢字堀河ノ沢34-4
岩手県立大東高等学校同窓会

印刷
トバン印刷(株)

同窓会報



ありがとうございます!! 感謝:

同窓会長 足利 勲
(昭和三十九年度卒)

同窓会の皆様には日頃より本校のために御支援御協力を賜り心から感謝を申し上げます。

今年五月に約三年半続いたコロナ禍による様々な規制が緩和され、地域や学校の諸行事も再開され、楽しそうな会話と笑顔が戻ってきました。通常の日常に戻り、顔をあわせて対話する事の大切さと、誰もが心待ちにしていた当たり前の毎日を過ごせることの幸せを感じています。

今年度、本校の生徒数が二百名を切りました。今年、地元大東町内の三中学校が統合され、新生大東中学校となりましたが、地域の中学生の人員の推移から、この先も生徒数の減少が続くものと思われま

す。今年度の同窓会の活動の最初の活動は六月十一日に開催された首都圏支部総会でした。佐藤支部長より招待を受け、久々の市ヶ谷アルカディアへ。待ちに待った同窓生のみなさんとの再会で元気な顔を見られたことが、何よりうれしい思い出となりました。六月二十四日には仙台支部総会がありました。出席者が減少し小山支部長の悩みの報告もありましたが、ぜひ継続してもらいたいと思っております。そして、七月四日、前岩手県教育長の佐藤博氏による同窓生講話を在校生とともに聴講させていただきました。将来に夢を抱かせる素晴らしいお話でした。同日夕方には、講話をしてくださった佐藤博氏の同席のもと、本部総会が開催されました。大原地区での開催は初めてでした。いつもならこの席上で地元就職してくれた新卒者の歓迎会を催すのですが、会場が離れたためか新卒

者の参加がなく、今回は見送ることになりました。地元で頑張ってくれている後輩たちを応援してゆかねばならないと強く認識したところで。

県内の出来事として、盛岡市内の旧県営球場に代わって、都南に待望の新球場「ぎたぎんボールパーク」が完成し、早速、春の岩手県大会より使用が始まりました。本校の野球部は春の県大会には出場できま

せんでしたが、夏の大会では三年生一人あとは一、二年生という若々しいチームで出場しました。この大会では一回戦平館高、二回戦では地元の雄一関一高を破り、三回戦まで進みました。三回戦では一関学院高に敗れたものの、試合を重ねること

に若いチームに著しい成長が見られました。そして、秋の新人戦でも一関地区予選を勝ち上がり、県大会に出場できました。一回戦では強豪大船渡高を破り、二回戦久慈工高にコールド勝ち、三回戦ベスト4をかけての対戦相手はまたしても一関学院高でした。大勢の部員をかかえる相手

校と九回裏まで堂々と競い合い、破れはしたものの見事な試合を見せてくれました。十三名しかいないチームで、投手力、打撃力とも互角の戦いでした。二年生部員は一

昨年大原中からまとまって八名で入部したメンバーです。部員不足の関係でこのメンバーが一年生から試合の経験を積ませ

てもらった事が、今の強さの元となっているようです。青柳監督のもとバッティングに力を入れての練習が功を奏し、一関学院高のヒット数九本と同数のヒットを打ち、打の大東と注目を浴びるチームへと成長

しています。この胸をすく活躍に私自身も秋の新人戦のすべてのゲームに足を運び応援させてもらいました。来春への期待に「がんばれ!」とエールを送ります!!

昨年、鹿踊部の衣装修繕にむけ、皆様から大きな御支援をいただいたことに改めてお礼を申し上げます。鹿踊部も各地区での催しに招待されて演舞を披露しております。今年度の岩手県高総文祭では、優良賞受賞と実力を発揮してくれました。今年は一関・大東大原水かけ祭りも四年ぶりに開催され、まったりイベントとしての演舞をしております。

また、十一月二十五日に本校の先輩の方に講師として貴重なお話を拝聴する機会を催しました(現在の同窓会の役員を中心としての研修会としました)。本校の校長室には「真理立国」と揮毫された額が飾つてあります。これは、昭和三十三年十月に「摺沢高校」創立十周年を記念して、元東大総長であった南原繁先生がおいでになり講演をいただいたときの書です。この時の講演会を在校生としてお聞きになった

伊藤義夫氏が今回の講師でした。東大の総長さんと呼べる教師が本校に在職していたというのも驚きの事です。間もなく来る百周年に向けて、同窓会の役員である私たちが先輩たちの築いてくれた永い歴史を振り返るうえで知っておきたいと考えての研修会として開催したものです。本校の歴史として振り返り学んだものです。

今年も進学や就職の季節となりました。地元志向の傾向が進んでいると聞いています。自分の選択した進路に向け努力を続けてください。校長先生をはじめ教職員の皆様の日頃の御指導に感謝を申し上げ、生徒たちへのさらなる御指導をお願い申し上げます。

結びに、同窓会の皆様の益々の御健勝をお祈りいたします。



この二年を振り返って

校長 佐々木 信明

本校二年目となりました、校長の佐々木信明と申します。同窓会の皆様方には、日頃より生徒のため、本校の教育活動に対する多大な御支援と御協力をいただきありがとうございますことに、心より感謝申し上げます。

今年度の本校は、在籍生徒数が昨年度より三十六名、およそ一クラス分少ない百七十名でスタートしました。生徒数が大きく減少しても、学校全体の輝きを維持するために一人ひとりがより明るく輝いてほしいという願いを込め、「一隅を照らす」という天台宗の開祖である最澄の言葉を、年度始めに生徒たちに紹介しました。以来これまで、生徒たちはその言葉を実践し、昨年度以上に様々な場面で活躍をしてきています。

主なものを紹介します。ワープ口部三年の青柳すずなさんが、八月に東京で行われた全国高等学校ワープ口競技大会に、弓道部二年の高橋竜さんが、十二月に東京で行われた全国高等学校弓道選抜大会に出場しました。美術部二年の

菅原椈さんの立体作品は、今年度の七・八月に岐阜で開催される全国高等学校総合文化祭美術工芸部門に出品されることが決まっています（美術部としては三年連続の出品）。さらに、日本新聞協会主催の「いつしよに読もう！ 新聞コンクール」では、普通科二年の及川つかさんが全国で十名の優秀賞の一人に選ばれた他、普通科二年の岩淵結衣さんが奨励賞を、本校も学校奨励賞を受賞しました。優秀賞の受賞は、昨年度の当時三年生の生徒に続いて二年連続です。

この他にも、複数の部や個人が、県や地域の大会等で優勝や上位入賞していますし、野球部の夏・秋の県大会での活躍も特筆すべきものでした。鹿踊部も多くの祭りやイベントから声をかけていただき、演舞披露の機会をいただいています。生徒数の関係で、団体競技となるとどうしても難しい面がありますが、個人競技だとまだまだ活躍の機会があるように感じています。

コロナが五類に移行したことが

ら、学校生活はほぼコロナ禍以前と同じレベルに戻ってきました。行事は中止や延期をすることなく予定どおりに実施できており、琢磨祭も今年度は一般公開で行いました。生徒たちは誰一人一般公開での琢磨祭の経験がありませんでしたが、頑張つて素晴らしい文化祭にしてくれました。昨年度はほとんど各教室へのオンライン配信で行った長期休業前後の式や集会等も、全生徒が体育館に集まって対面式で行っています。生徒たちの顔を直接見る機会が増えたことを嬉しく思っています。ただ、様々なものを無条件にコロナ禍以前と同じに戻すのではなく、我々を取り巻く社会の状況や教職員の働き方改革の観点等を踏まえ、廃止するもの、形を変えて継続するもの、全く新しい形で行うものなど、コロナ禍を機に見直したことを今後に生かしていく必要を感じているところ です。

同窓会関係では、昨年六月に、前年に続いて首都圏支部総会に、また初めて仙台支部総会にも出席させていただきましたが、どちらにおきましても、出席された皆様方の母校に対する熱い思いに改めて感激しました。また、同窓会総会開催の日には、昨年三月まで岩手県教育委員会教育長を四年間務められた佐藤博様に講師をお願いし、全校生徒を対象に本校にて講

演を行っていただきました。生徒対象の講演は初めてということですが、資料作成等に御苦労をおかけしてしまいました。生徒たちにとつて大変有意義な時間となりました。十一月には、昭和三十三年卒業の伊藤義夫様を講師にお迎えして役員向けの研修会が開かれました。校長室に飾られている「真理立国」の額縁の揮毫者である、戦後初の東大総長を務めた南原繁氏、そしてその関係者、彼らと本校やこの地域との繋がりについて興味深いお話を伺いましたが、知らないことばかりでしたので、大いに勉強させていただきました。

さて、本校は令和八年に創立百周年を迎えますが、昨年十二月に同窓会及びPTAの会長と副会長による合同役員会を開催し、準備に向けてスタートを切りました。記念式典は令和八年十月を予定しており、関連事業もこれから具体的に考えていくこととなります。組織として本格的に動き出すのは来年度になってからですが、学校の大きな節目である百周年事業を成功させるためには、同窓会の皆様方のお力添えが不可欠です。これから準備を進める中で、皆様方に様々なお願いをする場面があると思いますので、御協力をどうぞよろしくお願いいたします。

支部活動報告

首都圏支部

首都圏支部活動報告

支部長 佐藤 正弘

(昭和三十九年度卒)



ここ一年余、TV・新聞を見るとやたらと目につくのが残酷な戦争の記事、

増加の一途だ。歴史は繰り返すと云うが、愚かな事だ。戦争に大義などあるか！と言いたいのは私だけではない。一日も早く明るい雰囲気の記事や放送で埋まることを祈りたい。

さて、当支部の活動を報告致します。三月二十五日(土)岩手県連合会県南交流会参加。四月一日(土)、新人生への祝電発信。四月二十九日(土)役員会(アルカデア市ヶ谷)。四月三十日(日)総会案内状発信。六月十一日(日)総会・懇親会(アルカデア市ヶ谷)。七月十四日(金)。「私たち」の防災・防災バッチを大東高等学校に寄贈。八月二十日(日)東京大東会世話人会(御徒町吉池本店ビル)。九月三日(日)大原同

郷人会。九月七日(木)大東中学校修学旅行対応(アルカデア市ヶ谷天城)。女生徒八名・築瀬、永澤、佐藤で対応。九月二十九日(金)大原同郷人会と打合せ(アルカデア市ヶ谷)。十一月十九日(日)東京大東会(アルカデア市ヶ谷)以上。

【総会・講演会・懇親会】六月十一日(日)快晴。受付開始は十一時。十一時三十分写真撮影、菅原吉男さんの指示に従い三十九名がカメラに集中。(なんと素敵な顔々！)

第一部【総会】十二時、司会進行は理事の佐藤修一氏、開会の辞は上野仁子氏。上野氏は、「同窓会は生存確認の会です。これからも元気でご出席ください」とか！物故者に黙禱を捧げた後校歌斉唱、大きな声で元気に、リリーダ執るのは染物師の理事那須幸男氏。支部長挨拶は佐藤正弘。五年ぶりに懐かしい市ヶ谷に戻れて嬉しい。これからも会員一同力を合わせて三年後の百周年を盛り上げましょうとの挨拶！

副支部長を務める森井七郎氏より手際よい会計報告がなされ、その後、支部長より七名の来賓紹介があった。来賓は、同窓会会長足利勲氏、校長佐々木信明先生、日本大学名誉教授 河野英一先生、仙台支部長 小山正明氏、盛岡支

部長代理 菊地新悦氏、三九会代表 鳥畑弘幸氏。今回初めての試みとして、欠席会員の近況報告(特徴的なもの)が藤田礼子氏よりなされた。来賓祝辞は同窓会長より本部同窓会の活動、野球部の活躍や鹿踊り部の活躍、特に修繕費寄附金のお礼、学校長より令和五年度の学校概況について詳細な説明が有りました。特に、新人生や今後の学校運営については丁寧な説明をされました。日本大学名誉教授の河野英一先生からは、最近の社会情勢についてのお話を頂きました。閉会の辞は、副支部長の笹森美代子氏

ここで司会進行役が交代、理事の米内隆氏が担当(奥様同道で出席されました)

第二部【講演】(演題)「COVID-19は何をもたらしたか?」これまでと、これから

講師 小山修氏(昭和三十九年度卒・興田出身)(社会福祉法人幼年保護会理事長)

小山氏は新型コロナウイルスについて、資料を基に解りやすく解説、感染予防の大切さと、普段の生活を安全に継続する秘けつを解説された。また新型コロナウイルス感染問題が医療や様々な世界に変化と影響を与えた事実を報告された。最後にどうする日本と問題提起を行って講演を終わられた。

(角度の高いご講演ありがとうございました) 第三部【懇親会】乾杯 副支部長 伊藤道郎氏 来賓挨拶 盛岡支部長代理 菊池新悦様、仙台支部長 小山政明様、三九会 鳥畑弘幸様より各支部の近況等の報告が有りました。



岩手県立大東高等学校 首都圏支部同窓会

その後、各学年の報告や写真撮影で和気あいあいに進み十五時に副支部長の森井七郎氏より閉会の挨拶。解散！

十五時三十分よりアルカディア市ヶ谷二階のレストランで二次会、十七時解散。

【訃報】

千田練一さん（昭和三十八年度卒）が十月十六日（月）にご逝去されました。在学中は、ブラスバンド部所属。卒業後はNEC（日本電気）に入社。最先端技術コンピュータ等の営業に従事。退社後、新会社を起業、新製品の開発に努め海外への（特に台湾等）営業が功を奏し会社は順調に発展。その後、新たに個人会社ファイントップ社を設立、代表取締役社長に就任。晩年に体調を崩され十月十六日ご逝去。若い時から大東高等学校同窓会首都圏支部や東京大東会等の相談役の立場で指導にあたられた。故郷を愛し、大船度線摺沢駅が寂しいとテレビを寄贈、芦東山記念館玄関前に記念碑を寄贈される等故郷を大事にした。また、多くの人のお世話や相談に乗るなどして、面倒見の良い方だった。故人の人柄・御業績等や千田練一さんを偲ぶ方々の事等を考え、特例で、同窓会報に掲載したいと思っております。

首都圏同窓会を代表いたしましたし

て生前に賜りましたご厚情に厚く御礼を申し上げお礼の言葉といたします。

仙台支部

令和五年度

東高校同窓会仙台支部近況報告

仙台支部長 小山 政明

（昭和三十九年度卒）



四年に渡って猛威をふるい続けた新型コロナウイルス、本当に参りました

ね！ この間のブランクをやつと乗り越えて仙台支部総会開催にこぎつけることが出来ました。

休眠後の開催だっただけに果たして何人の同窓生に参加して頂けるか正直なところ心配でした。結果的には例年とほぼ同様の総勢十三名の規模となり、まずはほつと胸をなでおろしました。本部から足利会長と佐々木校長先生、それに山崎元副会長がご参加下さいました。さらには三十九年度卒の支部長の同級生二名が東京からわざわざ駆け付けてくれました。はからずも支部長の同級生が足利会長を含めて六名、四十一年度卒の千葉事務局長の同級生四名が集結したため、同窓会と同級会を兼ね

た感がありました。今回はなんと四十歳代の同窓生の初参加がありました。実に喜ばしく、歓迎すべきことでありました。これで年代的にも四十歳から八十歳までと今までにない幅広さを見せることとなります。

事務局長が長年料理長として勤めてきた炉端焼き屋さんの美味しい料理に舌鼓を打ちながら、全員がたつぷり時間をかけて高校時代の思い出や故郷の近況などを大いに語り合うことが出来ました。同じ時代を共に生き、思い出深い学生生活を過ごした同窓生がそれぞれ回顧する姿にその来し方や生き様に感動したものでした。

限られた時間の中でも同窓会会員皆様の人生を垣間見られるのも少人数のメリットの故かと思いま



す。コロナ禍を無事に乗り切り今もしつかり人生を楽しんでいらっしやる同窓会員のご無事と健康をお祈りするばかりです。

盛岡支部

盛岡支部あれこれ

盛岡支部幹事長 菊地 新悦



この三年間は新型コロナウイルス感染拡大防止のため諸行事が見送りと

という大変残念なことになっておりました。今年度は五類移行ということで、今までの支部活動はすべて復活できると思いましたが、しかし、市や地域の各種行事並びに会議等が一齐に再開し、なかなか当支部の日程がとれなかつたり、役員・会員の方々にもそれぞれ事情が生じたりということ、支部総会をはじめとした諸行事が思うように開催できませんでした。会員・学校関係者の方々には多大なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

今年度実施できた主な活動報告をいたします。

四月十七日（日）。盛岡市駅前クロステラスにて支部役員会。コロナ禍での生存確認。総会の開催

について話し合う。のち会食。藤館先生持参の「ふるさとだんご」をごちそうになる。自らの手づくりとか。とてもおいしくいただきました。

五月二十二日(月)。伊藤支部長宅にて会報等の発送作業。かつては四百以上の発送数がありましたが、ここ数年間に二百通ぐらいに減少。高齢化、少子化といろいろありますが、県都盛岡と大東高校との絆が希薄になっていることが寂しいです。

六月十一日(日)。首都圏支部総会に支部長代理で参加。いつもながら楽しく素晴らしい内容の企画に感動。会場で聞いた校歌には特別に感動しました。室根山、砂鉄川、そして真善美を追求する後輩たち。ひとつひとつが想像されて日本一素晴らしい校歌だと思いました。

七月二日(日)。支部総会中止。七月。全国高校野球選手権岩手大会応援。伊藤支部長は毎年のごとですが全試合応援。私も日程調整して参加。久しぶりのベスト16で大いに満足しました。少ない人数でここまでやるとはあっぱれ。

十二月x日。今年度の反省も含めて忘年会を計画しましたが、インフルエンザの流行もあり中止。十二月になって同窓の田村茂氏(さいたま市在住。元株式会社モ

スフードサービス専務取締役、現 office igatta代表S四十六卒)から二冊目となる新書「お役立ち思考のすすめ」(同友館)が届きました。頑張っています。学校図書館にもコーナーを作るなどしてぜひ応援よろしく願います。すでに二十四年度に向け新しい風が各所で吹き始めているようです。

活動報告

「同窓生講演会報告」

同窓会副会長 芦 宏



昭和五十一年度卒
昨年七月四日(火)、母校大東高校の全校生徒、教職員そして同窓会員合わせて二百名余りを前に、講演会が行われました。

講師を務めたのは、昭和五十一年度卒業で、前岩手県教育長(現国際交流協会理事長)の佐藤博さんです。

実は、佐藤博さんは高校時代の同級生です。そのような関係もあ



り、ここでは博君と呼ばせてもらいます。博君が県教育長に就任した当時から、何人かの友達から母校大東高校で博君の話が聞きたいとの話が出ていました。

そのような折り、令和四年度イー歯トップ8020表彰席の中で博君と雑談する機会があり、母校である大東高校で、生徒や同窓生の前で講演してほしいとお願ひしたところ、快く引き受けていただきました。

その後、昨年三月に博君が県教育長を退任したこともあり、同窓会役員会で講演の話をしたところ、佐々木信明校長先生や足利勲同窓会長の配慮もあり、今回の講演会の運びとなりました。

講演会では、県教育長在職中に力を入れて実現した全県立学校へのICT機器の環境整備やエアコン設置を実現したこと、自分だけの未来を語



るツールとしてICTを活用しながら追及する学びをぜひ実践してほしいと母校の後輩たちを前に熱く呼びかけていたのが印象的でした。

今回、同級生である博君の熱い講演をお聞きし、私自身とても嬉しく感じました。そして、夢と希望をもって何にでも挑戦してきた博君の根つこの部分は、高校時代に培われたのかなと、汗をかきながら講演で後輩たちを前に熱弁をふるっていた博君の姿から感じる事ができました。本当にありがとうございました。

「伊藤義夫先輩を講師に研修会開催」

同窓会理事 山崎 司朗

(昭和四十一年度卒)



同窓会の役員をして、何度となく校長室に入っているが、その

の度にいつも目につく書がある。一つは「真理立国」という書である。戦後初代東大総長をされた南原繁先生の書であるという。

なにゆえに東大総長をされた方が昭和三十三年十月三十一日摺沢高校創立十周年記念講演会に来校されたのか不思議に思っていた。当時摺沢高校の学生であった伊藤さんは南原先生の講演を聞き「誠



実に生きるといふ真理によつて国を立てる」という「真理立国」の精神に心を打たれ、独学で南原の精神を学んだという。

伊藤さんの説明によると、そもそも南原先生が講演をするきっかけは、東山町出身の教員であった教育者、クリスチャンの鈴木実氏の尽力によるという。

昭和二十九年十一月に講演と伝導のために岩手県に來た矢内原忠雄先生を通して講演が実現したという。矢内原先生は昭和二十九年十一月二十四日に本校で講演されていた

す。東大総長をされたお二人が講演されたというなんともすごい歴史が本校にあつたのです。

さて、南原先生が揮毫された書は校長室にあるが何と書かれているのか。鈴木勝博先生が調べられたのを引用させていただくと

原文「生希る毛能那へて嘆けりう徒し世尔つ登免や万佐らむ救者と以ふ耳」

すべて平仮名にすると「いけるもの なべてなげけりうつしよに つとめやまざらむすくはるといふに」

解釈をするには、この句が書か



れた昭和三十三年という時代背景とキリスト教徒であつた南原先生の思想理解が必要であろうが、前半は現世で嘆いている民衆の姿、後半で「救われえるといふのに」といつている宗教者としての姿が読み取れると勝手に思っている。

今回の講演は本校の歴史のなかにこんなことがあつたということ

を資料として残したく開催できたことを喜んでいふ今日である。



ぼくたちはどう生きるか？

小山 修

(昭和三十九年度卒)



日本は少子高齢社会だ。結果、市町村合併、学校統廃合、限界集落、放棄耕作地等々、問題をあげたらきりがない。これは以前からわかつていたが、対応すべき特効薬が見つけれなかった。このまま少子高齢社会が続けば故郷喪失しかない。

今の日本は日銀から金が湧いてくる。会社ならとくに潰れていくほど国家財政は大赤字だ。ツケは次世代が払うことになっている。こんな日本を抜け出して海外に脱出したほうが良い。そんな国はないか？ 残念ながら筆者の経験ではなさそうだ。四度ほど訪問したネパールでさえもあくせくしている。スピードが違うだけだ。昔、デンマークの医師会長が「給料の半分は税金。でも老後の保障があるから我慢できる」と言っていた。要するに高負担高福祉ということである。膨大な借金を抱えた日本

で高福祉は期待できない。子供や孫たちにとって大変な時代が来つつある。

そもそも学校の目的は、児童生徒の人格形成を目指しただけではない。地域に有用な人材を育てることも役割だった。しかし地域を忘れて学歴に偏ってしまった。さらに教師という高学歴集団の活用も曲がってしまった。

金がないなら知恵を出すしかない。知恵は知識がなければ生まれない。知識は懐にしまっておくのではなく、話したり書いたりしなければ役立たない。話すことは誰でもできる。書くことはメモすることよい。

差し当たってどうするか？パングラデシュに「シヨミティ」という女性の会がある。集落の女性が集まって、毎月少額なお金を出し合い貯金する。一年後貯まったお金を借りた人が理由と返済方法を説明して、全員から承認が得られれば希望する金額を借りられる。例えば、鶏を増やして卵を売り、その収益で子供の学費にしたい。そのためには鶏を○羽に増やしたいので借りたい。鶏がミンダだったり、野菜の種だったりする。これに目を付けたグラミン銀行は、マイクロクレジットとして、国内女性に優先して貸し付けを行い、途上国女性の自立に貢献した

としてノーベル平和賞を受賞している。これは日本の「講」と似ている。講は信用金庫のルーツともいわれる金銭扶助組織である。これに労働扶助である「結」を加えた相互扶助組織を作ったらどうだろう。余った時間、技術を登録して、必要な人に提供する。善意銀行と似ている。異なるのは、モノ、金、技術を一方的にあげるだけでなく、「時間」を貯めることである。ゆくゆくは自分に返ってくるシステムにする。クーポン方式で自分もサービスを利用できるようにすることだ。介護、子育て、農作業などニーズはいくらでもある。

「なぜ生きるか」(親鸞)ではないが、十年先の自分を描きながら、友人、家族と話し合ってみたらどうだろうか？「どう生きるか」の知恵がたくさん生まれることを期待したい。



私のトキワ荘 地歴部と長屋での高校時代

鈴木 利典

(昭和五十二年度卒)

こんにちは。私は、昭和五十二

年度の卒業生です。当時の大東高校はA組からG組まで七クラスあり、登校時には摺沢駅から乙女坂まで列が途切れないほど生徒がいきました。

部活動も盛んで、体操部、ソフトボール部、テニス部には全国大会で活躍する同級生もいたほどです。私も運動部で汗を流したかったです。バスで通学するだけでも大変だったので、文化部の一つの地歴部(地理歴史研究部)を選び、入部当時は、昇降口の北側にある薄暗い長屋(部室)から、校庭や体育館で日暮れまで活動する同級生を羨ましく眺めていました。

ところが、(時々ですが…)北上山地に眠る古生代の三葉虫や腕足類を探しに出かけ、鍾乳洞や縄文時代の遺跡を巡っているうちに、多少オタク系ですが、長屋での生活を楽しめるようになりました。先輩にも恵まれ、頼もしい先輩もできました。

今になって驚いているのは、卒業後の部員の進路です。先輩の一人は、古生物の研究をするために北海道大学に進み、別の先輩は、県職トップの総務部長に就任し、その後は教育長も務めました。歴史に魅せられた後輩は、平泉の世界遺産登録に貢献し、世界遺産課長を経て大学の客員教授となつて

います。

中央の著名人とは次元が違いますが、私には、あの薄暗い長屋が、まるで著名な漫画家を輩出したトキワ荘と重なり、とても懐かしく思い出されます。

私は：：というと、大学では電気や地震波などから地下構造を探る物理探査学を専攻しました。地学が基本の分野です。卒業後は教職に進み、理科教師の傍らで、相変わらず地層を観察したり、化石や鉱物を集めたりしていました。退職後に、教育関係の本を二冊出版したところ、思いもかけず百回を超す講演(授業)依頼に追われています。失敗談もたくさんあり、これといった肩書きもないのですが、今では地歴部とあの長屋での高校時代に感謝している一人です。さて、地歴部の紹介は一例に過ぎません。これまで、至る所で大東高校卒業生と出会い、彼らの活躍を目にしました。

先輩のみなさんも、ぜひ、母校の校歌のように、それぞれの「大いなる未来」を切り拓き、社会に貢献してほしいと願っています。



令和五年度 在校生の活躍

運動部

弓道部 第十五回若手県高等学校弓道遠征選手権大会

女子の部 優勝

第四十二回全国高等学校弓道選抜大会若手県予選会

男子 個人の部 ベスト8

男子 個人の部 第一位 高橋 竜

男子 個人の部 第二位 高橋 竜

男子 個人の部 第三位 高橋 竜

男子 個人の部 第四位 高橋 竜

男子 個人の部 第五位 高橋 竜

男子 個人の部 第六位 高橋 竜

男子 個人の部 第七位 高橋 竜

男子 個人の部 第八位 高橋 竜

男子 個人の部 第九位 高橋 竜

男子 個人の部 第十位 高橋 竜

男子 個人の部 第十一位 高橋 竜

男子 個人の部 第十二位 高橋 竜

男子 個人の部 第十三位 高橋 竜

男子 個人の部 第十四位 高橋 竜

男子 個人の部 第十五位 高橋 竜

男子 個人の部 第十六位 高橋 竜

男子 個人の部 第十七位 高橋 竜

男子 個人の部 第十八位 高橋 竜

男子 個人の部 第十九位 高橋 竜

男子 個人の部 第二十位 高橋 竜

令和五年度 同窓会総会報告

令和五年七月四日(火) 同窓会本部総会が開催されました。新型コロナウイルス五類移行を受け、今年度は総会後に懇親会も開催することができました。

大原「えび松」を会場に、十九名で総会が開催されました。総会は、佐藤徳幸氏(S六十一卒・曾慶)を議長に選出し、令和四年度の事業報告・決算報告、令和五年度の事業計画・予算案について承認されました。また、第三号議案として提出された応援歌CDについては、五百枚ほどある在庫を、希望する同窓生へ販売することが承認されました。

その他連絡として、佐々木校長から創立百周年記念式典は令和八年度に実施、今年度内に準備委員会(仮称)を立ち上げることが伝えられました。

総会後の懇親会は四年ぶりの会食を伴った会ということで大変盛会でした。

重要 「事務局から」 同窓会本部総会の案内について 郵送での案内は、理事と前年度出席者に限定し、全体へは同窓会ホームページへの掲載で周知したいと思えます。

●令和4年度同窓会会計報告

収入総額	1,427,140円
支出総額	982,058円
差引残額	445,082円

役員会名簿

令和五年度 大東高校同窓会

会長 足利 勲(曾慶)

副会長 鈴木 哲(一関)

理事 芦 史(浪民)

菊地 誠(浪民)

金 秀也(浪民)

佐々木 信明(校長)

穴戸 英作(摺沢)

後藤 幸郎(大原)

菊池 幸正(大原)

太田 幸和(大原)

金野 政和(大原)

金野 幸富(大原)

岩野 隆太(大原)

岩野 幸治(大原)

佐藤 治(大原)

小崎 樹(浪民)

山崎 朗(東山)

高橋 男(東山)

鈴木 淳(東山)

小池 喜(室根)

事務局 〒〇二九一〇五二三 岩手県一関市大東町摺沢 字堀河ノ沢三四一四 TEL(〇一九)七五三三三六九 FAX(〇一九)七五三三三七一 事務局員 武田 宏行 足利 麻美

あしがき 今年も、同窓会報第十八号を発行することができました。お忙しい中ご寄稿くださいました同窓生の皆様、本当にありがとうございました。世の中の様々な活動が再開され、学校にも全校生徒が一堂に会する行事や集会が戻って参りました。同窓会としても総会後の懇親会や役員研修会等、対面での行事を再開し、創立百周年にむけて準備に入りました。今後とも、母校の教育活動にご支援とご協力をお願いいたします。

令和五年度卒業生幹事 (〇は代表幹事)

- 小山 静 藍(三A)
- 加藤 青空(三B)
- 岩 渕 裕太(三C)

よろしくお願いします。